

実施日 2024年5月31日(金) 天候 曇り午後から小雨

集合場所 城北公園バス停前 参加者 60名

行程 城北公園バス停前⇒城北菖蒲園⇒千人塚(淀川堤上)⇒淀川  
ワンド⇒赤川鉄橋⇒淀川大堰⇒毛馬閘門(昼食・班長会・集  
合写真)⇒毛馬閘門見学⇒蕪村公園⇒JR桜ノ宮駅

- 朝方の雨に出鼻をくじかれ、参加者73名が60名になったものの、そこは「そら組」です。いつものように元気な顔、顔が集合。
- まずは、城北菖蒲園で江戸系、伊勢系、肥後系の約250品種、13,000株の見頃となっている花菖蒲を約1時間鑑賞。



○淀川の堤上では、「千人塚」建立経過。淀川ワンドには、「淀川のシンボルフィッシュ」ともいわれる「イタセンバラ」が生息するなど「水生生物の宝庫」になっているとの説明にうなづく。

○赤川鉄橋。正式には、「淀川橋梁」といい、平成6年10月までは、人と列車が渡る珍しい鉄橋でした。鉄橋下での休憩中に、運良くJR大阪東線の電車の通過を見上げることができました。

○江戸中期の俳人・画家「与謝蕪村」の生誕地「毛馬」に建つ句碑の前では、造詣ある尾崎さんから「与謝蕪村」について詳しく説明をいただきました。

○淀川の「水のかなめ」の歴史とその流れである淀川大堰・淀川大堰閘門、毛馬水門、毛馬閘門について、国交省淀川河川事務所職員の方の説明。



○魚道については、良好な生態環境を維持するために、大堰の両サイドに設けられていますとのこと。また、大阪・関西万博開催まで大堰閘門の整備完了は、「工期的に窮屈」と。

○大阪の洪水及び高潮対策としての毛馬排水機場の役割については、ポンプ室で説明を受けました。降雨のため、淀川大堰そばまで行けなかったのは、ちと残念。

○傘の花がぞろぞろと大川沿いを歩く。大阪市の水道発祥についての記念碑や、またJR桜ノ宮駅近くの環状線高架下の京阪電鉄が梅田に乗り入れる計画の痕跡については、池尾さんに解説していただきました。

#### (所感……ひと言)



○白。ピンク、紫など満開で見所満載で見ごたえがありました。毛馬閘門の説明も未来があって希望がもてます。古い閘門はレンガ造りで風情があって特に良かったです。

○菖蒲園では一目で全部の景色が見渡せ、見ごろの花菖蒲が水面を涼やかに彩り心と和みました。毛馬閘門は、機会があれば船に乗って実際に体験してみたい。

○大水害の予防の凄さが良くわかった。

○城北の菖蒲繚乱 誰れが名付けた 李香蘭

